

山行報告書

作成 2012年10月15日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	谷川連峰縦走	目的[方法]	紅葉と山スキーの下見
期間	2012年10月6(土)~7日(日)	形態	縦走
参加人数	6人		

行動記録:

岡崎集合 (300) = 岡崎 IC (310) = 駒ヶ根 SA (500,510) = 東部湯の丸 SA、朝食 (650,705) = 水上 IC (840) = 土合口 P (910,950) + + 天神平 (1000,1005) - 熊穴沢避難小屋 (1055,1100) - 肩ノ小屋、昼食 (1210,1230) - 谷川岳トマの耳 (1240,1245) - 谷川岳オキの耳 (1300,1310) - 肩ノ小屋 (1330,1335) - オジカ沢ノ頭 (1430,1440) - 大障子避難小屋 (1515) TS1

TS1 (550) - 万太郎山 (655,700) - エビス大黒ノ頭 (900,910) - 仙ノ倉山、昼食 (1015,1030) - 平標山 (1110,1130) - 松手山 (1220,1235) - 平標登山口 (1325,1405) = 湯沢駅 (1441,1505) + + 土合駅 (1531) - 土合口 P (1550,1600) = ひがきホテル 温泉 (1630,1730) = 水上 IC (1740) = 赤城高原 SA、夕食 (1800,1830) = 恵那 SA (2250) = 岡崎 IC (2350) = 岡崎集合場所 (2400)

概念図:



日誌:

水上 IC を降りてから コンビあり、土合口 P は 500 円/台 (2 日間置いても料金変わらず)、谷川岳ロープウェイ片道 1200 円 (往復 2000 円)、トイレあり、三連休の土曜日だが、ロープウェイはそんなに待ち時間なく乗ることができた。ロープウェイからはまた紅葉はほとんど見られず。

天神平で準備運動をし、歩き始める。熊穴沢避難小屋までは、緩やかな登りや尾根で快適であった。避難小屋は、綺麗で 4 人以上は寝られる十分なスペースあり、ここから肩ノ小屋までは急坂になり、きつくなる。肩ノ小屋に到着し、昼食をとる。トイレはあるが、待ち時間 30 分以上の長い行列ができていた。谷川岳までは人は多かつたが、渋滞して止まることなく歩くことができた。山頂付近の紅葉は見ごろで、綺麗だった。

肩ノ小屋からオジカ沢ノ頭方面には一気に入りがなく、日帰りの登山客が多いと感じた。これから歩く、遠く伸びた尾根の登山道と紅葉を見ながら歩くことができ、気持ちよかった。オジカ沢ノ頭の避難小屋は定員 3 人程度で、床が湿っていてあまり快適そうではなかった。徐々に天気が崩れ始め、私たちが歩いている尾根を境に右側(北側)はガスで覆われ、左側(南側)は綺麗に山を見ることができた。登ったり下ったりしながら、大障子避難小屋に到着。

女性は小屋泊、男性はテント泊する。小屋内は 8 人で狭いが、荷物の棚もあり、まずまず快適だった。小屋の周りは、テントが数張りであった。夕食はサラダとハムと鍋、朝食はラーメンを食べた。山岳会に入会して初めての泊まりだったので、食当について、いかびバランスのよいメニューで食材を軽くなるか(野菜を干しておくなど)について、少し学ぶことができた。外は星は見えなかったが、町の夜景を見ることができた。小屋の中は、みんな 18 時半には消灯しており、すごく早くびっくした。

消灯後から雨が降り始めたが、私たちが出発する頃にちょうど止んだ。しかし、かなりの強風で、一面ガスで覆われて景色や紅葉が見えず、ひたすら歩くと縦走登山になった。万太郎山から少し下った頃、一瞬ガスが抜けて紅葉が見えた時は、疲れが和らいた。越路避難小屋は定員 4 人程度で、今回見た避難小屋の中で、一番綺麗だった。エビス避難小屋は、定員 5 人程度寝れそうだった。

仙ノ倉山の手前で、強風をしのぎながら昼食をとる。仙ノ倉山山頂もものすごく強風とガスにより、景色が見えず残念だった。平標山までは、木の階段と木道があり、名前の通り平坦で歩きやすい登山道で、チングルマの葉が真っ赤に紅葉して綺麗だった。

平標山に着くと日帰り登山客の姿が増えた。ここから、松手山までは強風も山で遮られ、ガスもなくなり紅葉が綺麗に見え快適になった。日帰りでも十分紅葉を楽しめるルートだと思った。松手山以降は樹林帯となり一気に下山する。平標登山口から湯沢駅まで、バス運賃 580 円 + ザック代 100 円 (スキー、スノーボード代も 100 円)。湯沢駅から土合駅まで、電車運賃 400 円。ひがきホテルの温泉 800 円 (割引券使用) に入浴。

感想：

1 日目は天気がよく谷川岳の紅葉がよく見えてよかった。2日目はほとんど景色を楽しむことができず残念だったが、避難小屋泊は初めてだったので、いい経験になった。また、山ご飯について、どんな工夫をしているのか、もっと知りたくなった。

山スキーは、平標山の北側斜面がコースルートにあるが、天気も悪くあまり見えなかった。下の方は分からないが、急な所もありそうだったが、選べば快適に滑れそうと思った。